

在宅看護学実習

責任者・コーディネーター	地域包括ケア講座 宮本 郁子 教授		
担当講座・学科(分野)	地域包括ケア講座		
対象学年	3	区分・時間数	実習 75 時間
期 間	後期		
単 位 数	2 単位		

・学習方針（講義概要等）

訪問看護ステーション、地域包括支援センターの業務に参加し、訪問看護や包括支援センター業務の実際を体験し、在宅療養者に対する看護の機能、役割を理解する。具体的には、訪問看護ステーションの事例に対応する看護職に同行し、居宅における看護を学修するとともに、地域で療養者を支援するための医療機関、薬局、福祉サービスの実際の活動を見学し、訪問看護の役割を学ぶ。そして、地域包括ケアシステムをマネジメントしている地域包括支援センターの役割を理解する。

・教育成果（アウトカム）

訪問看護ステーションでの在宅看護の実際を体験することにより、地域で生活する人々への看護方法を考えることができる。さらに地域包括支援センターの活動を体験することにより地域のケア体制を理解し、関係機関との連携および看護の役割を説明することができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマポリシー：1, 2, 3, 4, 5, 7, 8

・到達目標（SBO）

1. 地域看護に必要な知識・態度を身につける
2. 対象者及び家族を地域の生活者としてとらえることができる
3. 訪問看護による支援方法を考えることができる
4. 地域における関係機関の連携を理解し、看護の役割を認識できる。

・授業日程

【実習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
各グループの実習期間は、実習要項等に記載する。			地域包括ケア講座	宮本 郁子 教授 岩瀬 光子 特任准教授 大澤 扶佐子 講師 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教	訪問看護ステーションでは、5日間、訪問看護の見学、具体的事例の看護過程の展開を行う。 訪問看護実施前に、情報収集を行い、看護計画を作成する。実施後には担当した訪問看護師とカンファレンスを持ち、訪問看護の役割を理解する。 地域包括支援センターでは、4日間、支援必要者への訪問、事業への参加、多職種連携会議等に参加する。これらの経験を通じて支援を必要としている人々に対する介護保険制度、医療保険制度、障害者総合支援法等支援のしくみを学び、看護職の役割を理解する。 実習最終日は学内カンファレンスを行う。 *詳細は実習要項に記載

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア	臺 有桂 他編	メディカ出版	2019
参	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅を支える技術	臺 有桂 他編	メディカ出版	2019
参	国民衛生の動向 2019/2020		厚生労働統計協会	2019
推	強みと弱みからみた在宅看護過程	河野あゆみ	医学書院	2018

・ 成績評価方法

在宅看護学実習評価表に基づき評価する。なお評価は、実習先の地域の人々やスタッフの方への対応、実習記録物等による総合的な評価を行なう。

* 在宅看護学実習要項参照

・ 特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

事前学習は実習要項事前記録用紙による学修を課す。実習中は「日々の記録」を課す。訪問看護ステーション実習時は在宅看護過程の展開、地域包括支援センター実習時は地域ケアシステムマネジメント等について学び、それぞれの記録用紙に記載する。これらの事前事後学修時間は最低 30 分以上を要する。

* 実習要項参照

【レポート等の課題に対するフィードバック】

実習記録は、実習機関と評価後、個人面接により返却する。

産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

保健師（別表 1）：臨地実習 公衆衛生看護学実習 個人・家族・集団・組織の支援実習

看護師（別表 3）：臨地実習 統合分野 在宅看護論

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習要項に記載する。			